

# 土門拳

# 自選作品展



厨子扉海老錠 法隆寺西院聖霊院

カメラの前の森羅万象が、海は海なりに、水は水なりに、  
人は人なりに、そこにあるように、あるだけの話である。  
目に見える物、多くの感情をゆさぶって撮らしめるもの、  
何も他には変わったことではない。

土門拳

★1/4～新春お年賀プレゼントあり  
2017年1月4日(水)～4月16日(日)

3月まで月曜休館(祝日の場合は翌火曜)

同時開催

## 日本人の原像

土門が青春時代に抱いた  
考古学への情熱の結晶

～3月3日(金)まで



縄文時代後期の農夫の埴輪

同時開催

## 風貌

近年新たに発見された写真原稿  
芸能人、文化人、スポーツ選手等五八名  
未発表プリント特別公開中

あなたは何人わかりますか？



### イベント情報

- 1月 4日(水)～1月24日(火) 第11回 写真展「わたしのこの一枚」
- 1月 4日(水)～1月12日(木) 第56回 私の街さかた写真コンテスト入選作品展
- 2月25日(土) 午後2時～ 詩の朗読会「宝の日」

土門拳さんの記念館で吉野弘さんの詩を読む 出演:阿蘇孝子氏ほか

## 土門拳記念館

- 開館時間 AM 9:00 ～ PM 5:00(入館は4:30まで)
- 問合せ先 TEL/FAX 0234-31-0028
- 住所 酒田市飯森山 2-13(飯森山公園内)



# 土門拳記念館展示情報 2016

2017年1月4日(水)～4月16日(日)

休館日：月曜日 ※3月まで、祝日の場合は開館し翌火曜休館

ご来館の先着 100 名様に「土門拳ポストカード」のお年賀プレゼント！

## 主要展示室

### 土門拳 自選作品展

カラー・モノクロ 114点

土門拳は1977（昭和52）年、岸哲男ら信頼する4人の編集委員とともに、自身の40年を総括する豪華本『自選作品集』（世界文化社刊／全3巻）を発表しました。戦時中の作品については、編集委員会発足当初、土門の写真家としての原点であるから優れたものは認めるべき、との意見により収録する運びとなったという経緯があります。その掲載のためのネガの探索が、土門の日本工房時代という最初期のネガの発見につながるなど、思いがけない成果をもたらしました。

今回は本展示に向け「山河」「室生寺」「古寺・仏像」「自然」「伝統・美学」「伊豆・浅草」「戦前」「文楽」「戦後」「こどもたち」「ヒロシマ」「筑豊のこどもたち」の12に分け再構成した114点をご紹介します。

\*\*\*\*\*

## 企画展示室Ⅰ

### 風貌

カラー・モノクロ 39点

土門拳が尊敬する人、好きな人、親しい人たちを撮影した肖像作品は、自選作品集にも数多く収録されました。今回はそれらの作品を中心にをご紹介します。また、土門の自宅から近年新たに発見された、当時の雑誌依頼と思われる多数のプリント資料を特別公開いたします。土門がいずれ撮りたい人物を書き連ねたという自宅の壁面の写真をほぼ実寸大で再現したバナーと併せてご覧ください。

\*\*\*\*\*

## 企画展示室Ⅱ

### 日本人の原像 ※3/3（金）まで

カラー 32点

神奈川県立第二横浜中学校（現 県立横浜翠嵐高校）在学中、土門は画家を志していた一方で恩師の影響を受け考古学にも傾倒し、土器や鍬の発掘に熱中しました。

今回展示する作品は、旧石器・縄文時代を芹沢長介、弥生古墳時代を坪井清足という、その後の日本の考古学研究に大きな功績を残した研究者たちの文とともに、1966（昭和41）年、平凡社から「日本人の原像」として刊行されたものです。すでに、50歳代半ばとなり、写真家として活躍していた土門ですが、少年の日に芽生えた考古学への情熱が結実した作品といえるでしょう。

第11回「わたしのこの一枚」写真展

1/4（水）～1/24（火）

※作品画像提供ご希望の方は [domonken@taupe.plala.or.jp](mailto:domonken@taupe.plala.or.jp) までご連絡ください

土門拳記念館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山二丁目13番地（飯森山公園内）

TEL/FAX：0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>